

平成31年度学校評価

山梨大学教育学部附属中学校 学校評価委員会

1 学校評価の目的

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として**組織的・継続的な改善を図ること**。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表や説明により、適切に**説明責任を果たす**とともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、**学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること**。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の**教育の質を保証し、その向上を図ること**。

2 学校評価の方法

上記目的の①、②を受けて、本校としては次の考えに基づいて評価を行った。

【自己評価】

教職員による自己評価は、教職員全員で、後述する**9領域12項目**について、4段階（A：できている B：概ねできている C：あまりできていない D：できていない）による評価を行う。

【保護者アンケート】

学校の自己評価項目を基に、その内容をより具体化した**6領域13項目**について、全保護者を対象とした、5段階評価（①：当てはまる ②：やや当てはまる ③：あまり当てはまらない ④：当てはまらない ⑤：分からない(評価できない)）によるアンケートを実施した。

【学校関係者評価】

昨年度同様、学校評議員会のメンバーに学校関係者評価委員を兼任していただくようにした。本校の様子をより近くで見られている保護者代表として、PTA会長と第3学年のPTA副会長に加わっていただけけるからでもある。

学校関係者評価は、学校における教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果や方法について評価することを基本として行った。

3 評価項目

平成24～28年度の評価項目は11項目であったが、新学習指導要領に対応するため、平成29年度から評価項目を1つ増やし（具体的には教科教育）、次の12項目について評価した。

- | | | | |
|-------|--------|-------|---------|
| ○教科教育 | ○道徳教育 | ○SELF | ○キャリア教育 |
| ○生徒指導 | ○防災・防犯 | ○交通安全 | ○特別支援教育 |
| ○教育相談 | ○組織運営 | ○学校評価 | ○情報提供 |

4 評価指標・目標・改善策

平成31年度の評価指標・目標・改善策は、平成30年度の学校評価の結果を参考に、拡大学校評価委員会で検討し、作成した。詳細は、《資料1》のとおりである。

5 年間計画

(1) 年間スケジュール

月	学校関係者評価	自己評価
4月		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校評価委員会の設置 ■ 前年度の評価結果・改善方策の反映
5月		<ul style="list-style-type: none"> ■ 目標・計画の設定 ■ 学校評価委員会による評価項目の決定 ■ 今年度改善策の最終決定
6月	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学校関係者評価委員会の設置 <input type="checkbox"/> 学校からの目標や計画等の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目標達成に向けた教育の実践 ■ 学校内外への教育活動の公開 ■ 教育活動情報の発信 ■ 学校に対する意見の聴取
12月	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 授業や行事の参観・教職員との対話等の実施 <input type="checkbox"/> 学校からの教育活動情報の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員による自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成状況 ・ 成果と課題 ・ 改善策
1月		<ul style="list-style-type: none"> ■ 改善策を含む自己評価書の作成 ■ 自己評価書の提出
2月	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自己評価結果の検証 <input type="checkbox"/> 学校関係者評価の実施 <input type="checkbox"/> 学校関係者評価書の作成 	
3月		<ul style="list-style-type: none"> ■ 次年度へ向けた評価結果・改善方策の整理 ■ 課題解決方法や指導体制・組織の検討 ■ 自己評価書の公表

◇ 継続的な情報・資料の収集・整理

◇ 保護者へのアンケート実施

(2) 学校評価委員会の取組

- 第1回学校評価委員会（4月10日 運営委員会）
 - ・学校評価の目的と方法の確認
 - ・前年度の評価結果と改善方策の確認
 - ・評価項目と評価指標の原案作成
 - ・目標と年間計画の決定
- 第4回職員会議で全職員へ（4月17日）
- 第2回学校評価委員会（5月8日 企画委員会）
 - ・本年度の具体的な対応・取り組みの検討
- 第1回拡大学校評価委員会（5月10日～5月17日）
 - ・各評価項目担当者が集まり評価指標と改善策の最終決定
- 第5回職員会議で全職員へ（5月22日）
- 6月～12月
 - ・継続的な情報・資料の収集・整理
 - ・全方位的な点検・評価と日常的な点検
- 第3回学校評価委員会（8月21日 第8回職員会議）
 - ・自己評価の実施に向けた自己評価書の様式・記述内容の検討
 - ・自己評価調書（中間報告）作成
- 第3回学校評価委員会（11月13日 企画委員会）
 - ・自己評価調書の記述内容確認
 - ・保護者アンケートの内容決定
- 11月～12月
 - ・自己評価調書の配付（11月22日「11月29日までに回収」）
 - ・保護者アンケートの実施と集計（11月29日「12月6日までに回収」）
- 第4回学校評価委員会（1月15日 企画委員会）
 - ・自己評価調書と自己評価書の完成に向けた日程確認
- 第13回職員会議にて全職員で確認（1月22日）
- 第2回拡大学校評価委員会（1月23日～1月31日）
 - ・自己評価調書の内容検討
 - ・次年度改善方策原案の検討
- 第5回学校評価委員会（2月4日 企画委員会）
 - ・次年度改善方策案原案の決定
 - ・組織の見直し
 - ・自己評価書の作成
- 自己評価書完成（2月12日）
- 第14回職員会議にて次年度改善方策原案を全職員で確認（2月19日）
- 第3回拡大学校評価委員会（2月20日～2月28日）
 - ・次年度改善方策の主な取組計画原案の作成

(3) 学校関係者評価委員会の取組

- 第1回学校関係者評価委員会（6月5日）
 - ・学校評価・学校関係者評価の概要説明
 - ・今年度の評価指標・目標・改善策と評価委員会の活動予定の確認
 - ・学校関係者評価委員会評価書（外部評価書）の説明
 - ・質疑応答
- 第2回学校関係者評価委員会（9月6日）
 - ・学園祭体育部門の参観
 - ・学校評価中間報告と質疑応答

○第3回学校関係者評価委員会（2月14日）

- ・自己評価及び保護者アンケートの結果説明
- ・次年度の改善に向けた討議
- ・学校関係者評価委員会評価書（外部評価書）の作成

6 学校評価結果のまとめ

【自己評価】・・・《資料1》参照

《資料1》の平成31年度学校評価（自己評価）は、本年度改善策の取組状況に対して教職員が自己評価をしたものである。改善策とは、昨年取組で課題となった部分ということである。すべての改善策において、■がついているということは、昨年度よりも良い取組ができているということである。したがって、評価（数値）が下がったからといって、必ずしも本年度の取組が昨年度の取組より良くなかったということではない点に注意したい。

また、昨年度までと変えた点として、より評価の精度を上げることを目的に、評価指標の欄に「個人としてどうだったか（自）」・「全体としてどうだったか（全）」の2観点を設けたことがあげられる。

以上のことを受けて、本年度のアンケート結果を、昨年度のものと比較すると、全体的には評価がほぼ同じ結果(全体平均は3.61→3.59)であると言える。

前年度と比較して評価が下がった項目として、教科教育 (-0.10ポイント)・防災防犯 (-0.30ポイント)があげられる。この要因としては、評価指標の観点を全体から個人評価に変えたことが考えられる。これは、本校職員が自分の取組を厳しい目をもって見ているということが推測される。実際、課題について書く欄には多くの職員が「主体的・対話的で深い学び実現を目指した指導の具現がまだ不十分である（教科教育）」・「災害時の備えや場面を想定したことについては、自分自身でもう少し考える必要がある（防災・防犯）」という記述をしていた。

一方、前年度と比較して評価が上がった項目として、生徒指導 (+0.20ポイント)・情報提供 (+0.20ポイント)があげられる。今年度は「きめ細やかな生徒指導」・「早期発見、未然防止、迅速な対応」をテーマに掲げ生徒指導を行ってきた。成果について書く欄には、「日常的な情報交換」・「早期対応」に関する記述が多く、職員全体で生徒と関わる生徒指導ができているという手応えがうかがえる。また、情報提供に関しては、ホームページ担当の職員を中心に、大きな行事の活動の様子を終了後1週間以内に更新することを目指して取り組んだ。また、今年度から学校だより（附中だより）を掲載する試みをはじめた。このような取組もあり、ホームページの更新回数が昨年度に比べ1.7倍増加（79回*1月末時点）した。今後は、回数だけでなく、提供する情報の「質」にもこだわって情報提供に取り組んでいきたい。

【保護者アンケート】 《資料2》参照

《資料2》平成31年度のアンケート結果

本年度のアンケート結果を、昨年度のものと比較すると、全体的には評価がほぼ同じ結果(全体平均は3.46→3.45)であると言える。

大きく評価が上がった項目は、教科教育 (0.14ポイント)・道徳教育 (0.24ポイント)である。逆に、大きく下がった項目はキャリア教育 (-0.16ポイント・-0.17ポイント)であった。今年から「次年度も継続してほしい取り組み」について聞いており、この調査から保護者の望む教育活動と、教師側で意識していくことが、以下のように明らかに

なった。

学習に関連する内容としては、主に「研究に関する連携」「授業における話し合い活動の充実」「探究活動を中心としたSELF学習」「キャリア教育の充実」「若桐講座」があげられていた。特に「若桐講座」は大学ならびにPTAの協力のもと、10年間続いている実践である。毎年、大学との日程調整には苦慮しているものの、今後も、本校ならではの「魅力ある実践」として継続していきたい。ただ、「キャリア教育」については、まだまだ改善の余地がある。来年度より新たに取り入れる「キャリア・パスポート」も有効活用しながら、3年間を見通した教育課程を編成し、生徒たちが自身の将来について、広く、深く考える機会となる実践を積み重ねていきたい。

生活指導に関連する内容としては、主に「いじめに関する生徒指導の強化」「携帯・スマートフォンの安全使用に関する指導」「自転車通学を中心とした登下校の安全指導」があげられていた。特にスマホ使用をきっかけとした様々な問題が取り上げられる昨今、その有害性や危険性を認識させるための指導は不可欠である。来年度も今年度同様、各学年の実態に合わせた「情報モラル教室」を実施していくことを考えている。また、本校では公共交通機関や自転車を利用した遠距離通学生徒が多いことから、登下校における安全対策は、常に重要課題の一つである。来年度も日々の下校指導はもとより、集会や学級指導を活用しながら、生徒一人ひとりの安全に対する意識（公共交通機関利用時のマナーも含め）を高めていきたい。

【学校関係者評価】 《資料3》参照→本評議員会にて話し合われた内容を記載

7 評価結果の公表

評価指標・目標・改善策，自己評価一覧，保護者アンケート結果については，設置者に報告するとともに，次年度のPTA常任委員会及びPTA総会で保護者にも公表する。また，評価指標・目標・改善策についてはホームページにも掲載する。